

Y07a インフィテックを用いた可搬型立体投影システムの開発とその運用におけるコンテンツの評価

奥野光 (J S F)、田代英俊 (J S F)、中村隆 (J S F)、その他、国立天文台 4 次元デジタル宇宙プロジェクト

国立天文台 4 次元デジタル宇宙プロジェクトでは最新の天文研究成果を可視化することにより、一般の方々に分かりやすく伝えていくためシミュレーションムービー等のコンテンツ立体投影可能な形で開発している。しかし、立体投影を行う場合従来偏光面を崩さない特別なスクリーン等が必要であり、学校等で実施を行う場合輸送等の問題からスクリーンサイズ等の制約を大きく受けていた。そこで学校の教室、科学館やプラネタリウム等場所を選ばず壁や既存のスクリーンを利用して、各種シミュレーションや 3 D データを大型画面で立体像として投影し、児童・生徒がまさしく手にとるように、宇宙や太陽系の立体構造を直感的に理解することができる可搬型立体投影システムを開発した。輸送に関しても、本立体投影システムの主構成はインフィテックフィルター、P C 2 台、スタック台等からなり、収納ケースごとそのまま手軽に輸送が可能なシステムとなっている。さらに本研究ではアンケートなどにより本システムとコンテンツの評価を行った。